

授業科目	子どもの発達理解とあそび					実務家教員担当科目	-				
単位	1.	履修	選択	開講年次	2	開講時期	前期				
担当教員	阿南 寿美子										
授業概要	<p>保育は、子どもの遊びや生活の中で、直接的・具体的な体験を通して人とかかわる力や思考力、感性や表現する力などをはぐくみ、生涯にわたる人格形成の基礎を培うという重要な役割を担っている。保育者は、その遊びの重要性を理解し、乳幼児期の発達を見通し、子どもの興味や関心、行動の理解と予想に基づき、発達を促す遊び（活動）を計画することが必要である。本講義では、実際に乳幼児の遊びを体験し、子どもが遊びの中で何を学び、何を身につけているのか、保育者として遊びをどのように援助したらよいか等を考え、発達に応じた遊びの展開について理解を深め、実践力が身につくようにする。</p>										
授業形態	演習				授業方法	グループに分かれた実践や指導案の作成を行います。					
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児理解の意義を理解している。</li> <li>・乳幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。</li> <li>・乳幼児理解を深めるための保育者の基礎的な態度を理解している。</li> <li>・観察と記録の意義や目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。</li> <li>・個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。</li> <li>・乳幼児のつまずきを周りの乳幼児との関係やその他の背景から理解することができる。</li> <li>・保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。</li> <li>・子どもの遊びや活動の展開を予想し、保育者の援助について理解できる。</li> <li>・発達に即した遊びのレパートリーを増やし、保育現場で活用できる。</li> </ul> <p>乳幼児期の子どもの発達の特性を知り、あそびの計画を立てることができる。応答的環境について理解し、子どもと関わることができる。</p>										
理想的レベル	<p>子ども集団や個々の子どもの特性に配慮しながら遊びの援助方法について考えることができる。遊びを展開するときの子どもの言動のもとにある思いに気づき、柔軟な対応を考えることができる。</p>										
評価方法・評価割合											
評価方法		評価割合（数値）				備考					
試験											
小テスト											
レポート											
発表（口頭、プレゼンテーション）											
レポート外の提出物		70%				指導案、授業ノート、遊びのまとめなど					
その他		30%				授業時の態度、参加状況					
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	-	DP2	○	DP3	○	DP4	-	DP5	○	ナンバリング	CH21335J

学習課題（予習・復習）		1回の学習目安 （時間）
講義の内容について復習する。		1
授業計画		
第1回	オリエンテーション（村上・阿南） 授業の概要（目的・内容・評価方法等）及び子ども理解の意義について知る。	
第2回	0～1歳児の保育と遊び（村上・阿南） 0～1歳の発達	
第3回	2歳児の保育と遊び（村上・阿南） 2歳児の発達の様子を知り、保育への展開のあり方を考える。	
第4回	3歳児の保育と遊び（村上・阿南） 3歳児の発達の様子を知り、保育への展開のあり方を考える。	
第5回	4～5歳児の保育と遊び（村上・阿南） 4～5歳児の発達の様子を知り、保育への展開のあり方を考える。	
第6回	子どもの遊びと保育実践①（阿南・村上） 子ども同士の関わりと保育者の援助について理解する。 乳幼児の遊びを実践するための援助方法、留意点について振り返りを行う。	
第7回	リズム遊び（村上・阿南） 乳幼児期におけるリズム遊びの体験を通して発達に応じた援助方法について理解する。	
第8回	ルールのある遊び（村上・阿南） 乳幼児期に行われルールのある遊びへの体験を通して、発達に応じた援助方法について理解する。	
第9回	子どもの遊びと保育実践②（阿南・村上） 乳幼児のリズム遊び、ルールのある遊びを実践するための援助方法について例示する。 リズム遊びやルールのある遊びを中心とした子ども同士の関わりと保育者の援助について理解する。	
第10回	身近な素材を使った遊び（村上・阿南） 身近な素材を使った遊びを体験し、発達に応じた援助方法について理解する。	
第11回	子どもの遊びと保育実践③（阿南・村上） 身近な素材を使った遊びを体験するための援助方法について例示する。 身近な素材を使った遊びを中心とした子ども同士の関わりと保育者の援助について理解する。	
第12回	集団遊び（村上・阿南） 集団遊びの体験を通して、発達に応じた援助方法について理解する。	
第13回	まねっこ遊び・お話創り（村上・阿南） 体験を通して発達に応じた援助方法について理解する。	
第14回	子どもの遊びと保育実践④（阿南・村上） 集団遊び・まねっこ遊びを体験するための援助方法について例示する。 集団遊び、まねっこ遊びを中心とした子ども同士の関わりと保育者の援助について理解する。	
第15回	まとめとふりかえり（阿南） 前期に学んだ実践と理論を振り返る。	

テキスト	特に使用しない。
参考図書・教材 ／データ ベース・ 雑誌等の 紹介	<p>必要に応じて資料を配布します。</p> <p>実習の日誌と指導案サポートブック（大元千種監修、ナツメ社）</p> <p>遊びの指導 乳・幼児編（同文書院）</p> <p>乳児期の発達と生活・あそび（長瀬美子、ちいさいなかま社）</p> <p>幼児期の発達と生活・あそび（長瀬美子、ちいさいなかま社）</p>
課題に対するフィードバックの方法	課題は添削の上、授業内で解説する。
学生へのメッセージ・コメント	<p>1年次に学習した内容や教育実習・保育実習などの実践について自主的に総括してください。</p> <p>遊びの体験で実際に体を動かすことはできませんが、いろいろな遊びのアイデアを出し合ってみましょう。</p> <p>それを基にして、実践に活かせるように遊びの意味や展開の工夫等を伝えていきたいと思えます。</p>